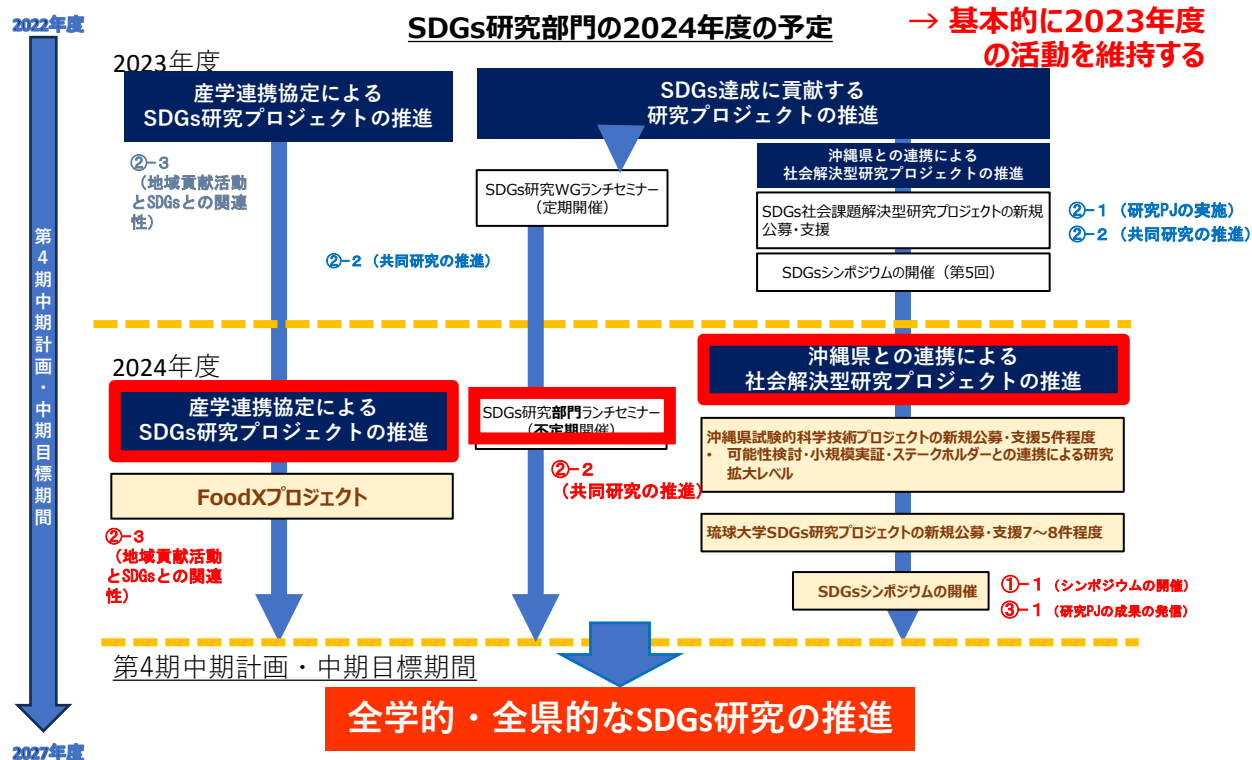
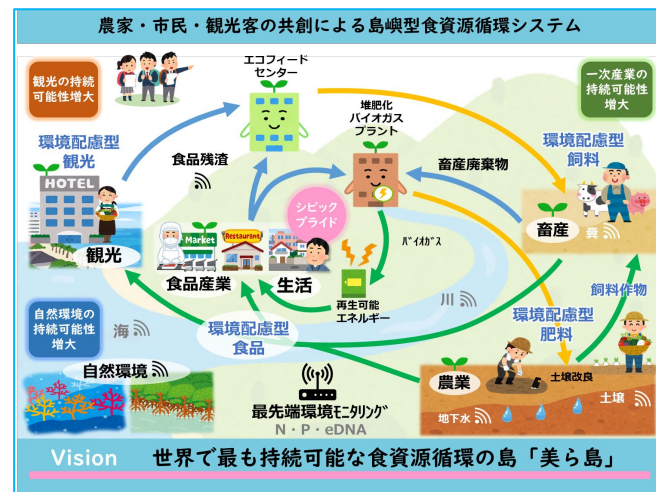
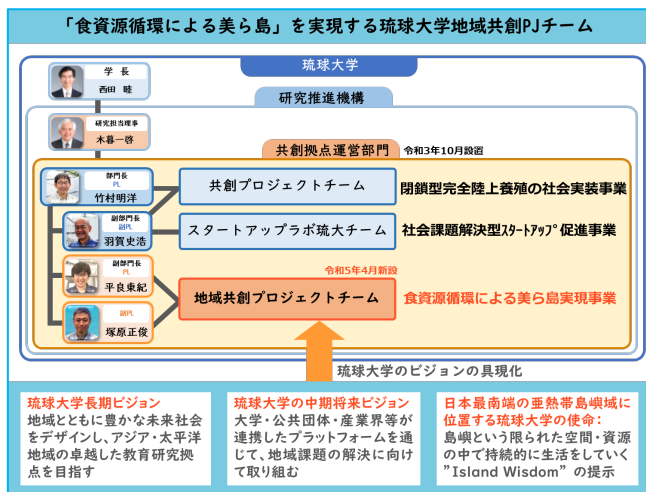




産学官連携によるSDGs研究プロジェクトの推進

食資源循環による「美ら島」実現プロジェクト

琉球大学長期ビジョン「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を具現化するため、研究推進機構の共創拠点運営部門内に「地域共創PJチーム」を設置。本PJチームでは、産官学連携によるSDGs研究プロジェクトである『食資源循環による「美ら島」実現プロジェクト（通称FoodXプロジェクト）』を推進。現在は、環境と調和した生活・農業の循環型システムで地域課題の解決を目指し竹富町と連携していくこととしている。



研究×SDGs ランチセミナー

本年度は教育学と社会科学分野の研究に焦点を当て、ランチセミナーを2回実施しました。

岡花祈一郎先生：教師のアイデンティティを「ファイシリテーター+トランスミッター」から「教師+研究者+コーチ+カリキュラム開発+ゲートキーパー+仲介者」へ

大学教員の皆さんに質問です

皆さんは「研究者」ですか？
それとも「教育者」ですか？

研究デザイン：

・欧米諸国を対象とした研究

役割	研究と関係する研究数	内職に用いる研究数
教師の教師 (teacher of teachers)	33	41
研究者 (researcher)	13	14
コーチ (coach)	18	12
カリキュラム開発者 (curriculum developer)	14	5
ゲートキーパー (gatekeeper)	8	0
仲介者 (broker)	30	

Jennerg, Dengerink and Korthagen (2014)

＞ 定性的研究が多く、定量的研究が少くない
＞ 欧米の研究はあるが、高等教育機関進学率が低い東南アジアでの教師教育者の職業アイデンティティ研究は少ない

では、東南アジアでは？

カンボジア (高等教育機関進学率15.0%)
ベトナム (高等教育機関進学率42.22%)
タイ (高等教育機関進学率49.14%)

＊高等教育機関進学率はUNESCOのISCED調査より。なお日本は63.17%。

参加者より

・「教師の教師」というアイデンティティが分野横断的に広まればよい
・研究者と教育者のどちらに重きを置くか？他学部の話も聞けてよかった
・「良い先生を育てることが、未来の子供達を育てより良い社会をつくることにつながる」が心に刺さった

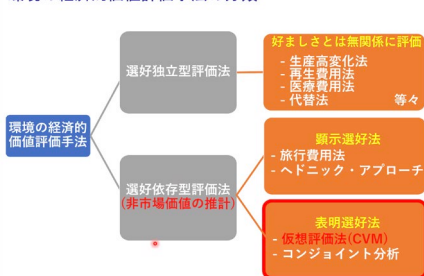
藤田陽子先生：島嶼研究への新たなアプローチ

環境の経済的価値評価手法としての仮想評価法(CVM)

「沖縄特有の島嶼性」を政策へどう戦略的に組み込むか？

参加者より

環境の経済的価値評価手法の分類



仮想的な環境変化(シナリオ)



・社会科学の研究に触れる機会がなかったのでアンケートの評価方法を聞いて試してみたいと思った
・実際の経済学の手法が聞けて面白かった
・人々の意識や価値観を定量化するという試みは、これから求められる多様性を政策へ反映する上で非常に重要な研究だと感じた

SDGs達成に貢献する研究プロジェクトの推進

SDGs研究部門



ランチタイムセミナー



2024年の第1, 2回のSDGs研究部門ランチタイムセミナーでは、琉球大学のSDGs達成に向けた研究の中から、教育学・社会科学分野の国際誌で発表された研究をご紹介します。

第1回 2024年7月23日(火) 12:10~12:40

ゲスト 岡花祈一郎 (教育学部 准教授)

テーマ Multidimensional Psychometrics of Teacher Educators' Professional Identity: An Initial Validation with Teacher Educators in Southeast Asia
教師教育者のアイデンティティ ファシリテーター&トランスミッターの境界と新しいアイデンティティの提案

第2回 2024年8月6日(火) 12:10~12:40

ゲスト 藤田陽子 (島嶼地域科学研究所 教授)

テーマ Economic Value of Coral Reefs in Palau
パラオにおける珊瑚礁の経済価値
Regional Science for Small Islands:
Construction of a New Approach to Island Studies
島嶼地域科学：島嶼研究への新たなアプローチの構築



参加申込み (無料)
<https://forms.office.com/r/uG6uXrXPLN>

主催：SDGs推進本部 研究部門
問合せ：研究企画室 (内線 千原 9087)

SDGsに関する研究をオープンキャンパスで紹介（琉大100人論文とのコラボ）

オープンキャンパス 特別企画

SDGs × 琉大100人論文



「琉大100人論文」で検索！

琉球大学附属図書館本館 2階 ラーニング・commons

2024年 7月 14日 10:00~17:00

対象者 RYUDAI TOUR at LIBRARY参加者
(図書館会場の参加申込者をご参加頂けます)

申込 事前申込 (学生生活・入試相談・図書館見学)
<https://www.ocans.jp/u-ryukyu/schedule?fid=NE2E2E>

内容 琉球大学のSDGs研究を紹介します

琉球大学では、2024年6月に琉大100人論文を開催しました。学内の研究者、学外の企業や地域の方に研究を発信し、また多くの意見が集まりました。オープンキャンパス特別企画では、今年の発表の中から、SDGsに関する10件の研究を集まった様々なコメントを紹介します。

高校生のみなさんの感想も待っています！
匿名で、「面白い」、「こんな研究に興味がある！」
など皆さんもコメントしてみませんか？

数量限定！
オリジナル付箋紙
プレゼント

琉大100人論文とは

琉大100人論文は、研究発表と交流のイベントです。京都大学の「京大100人論文」を参考にしたもので、匿名の発表に対して付箋でコメントすることで自由な意見交換を目指します。「論文」とありますが、分かりやすく短い文章で研究を紹介していますので、ぜひ気軽に見てください！

詳細は
「琉大100人論文」で検索！

お問合せ：琉球大学研究推進機構研究会図書
(WEBからお問合せ下さい)

共催：研究推進機構研究会図書、
SDGs推進本部、図書館、研究推進課

SDGsの観点から10テーマをピックアップして展示



関連するSDG番号を併記



見学者数110名以上

沖縄県との連携による社会解決型研究プロジェクトの推進

琉球大学 SDGs研究プロジェクト

令和6年度は18件の応募の中から8件の研究プロジェクトを採択しました。

部局	プロジェクト名	関連するSDGs
医学部	沖縄県の医療的ケア児が地域の学校で共に学ぶことを支える看護職育成を目指して	4・10・11
医学研究科	医工連携による骨盤底筋収縮を促す言葉のデザイン開発～より効果的な骨盤底筋トレーニングの普及を目指して～	3
教育学研究科	「共生社会の実現」に向けた「貧困や障害等の影響を受ける多様な子ども」への支援体制の構築と地域社会との連携・協働による教育・支援アプローチ	4・1・10
教育学研究科	視覚障害を持つ児童生徒を対象にした生成系AIを活用した情報活用能力の育成と学習支援AIエージェントの開発	4・10
工学部	シロアリの消化システムを利用した未利用植物資源の高循環と新素材開発	9・12・13
熱帯生物圏 研究センター	天然由来の免疫賦活剤を活用した新たな魚病対策技術の開発	2・14・9
農学部	ZEAL(Zero Emission Agriculture and livestock)II:大学農場のゼロミッションに向けた再エネルギー利用とスマート農業技術の開発	7・9・4
理学部	「大気海洋科学」×「農業経営」で窒素肥料量を最適化するスマートアグリの開発	2・12・14

沖縄県事業 科学技術プロジェクト

沖縄県事業のSDGs関連プロジェクトとも連携しながら、社会実装の取り組みを支援する。

- 【参考】試験的科学研究プロジェクト（沖縄県事業）採択PJ（R6）
- ◆子どもの体験格差解消を実現する沖縄型ネットワーク・エコシステム構築（域連携推進機構 福本 晃造 准教授）
 - ◆マイナー診療科における遠隔診療の実施可能性の試験的検証（医学部 内海 大介 特命講師）
 - ◆三線文化を継承する棹の代替木材の音響評価（農学部 谷口 真吾 教授）

【参考】琉球大学SDGs社会課題解決研究プロジェクト
18件応募8件採択（2023年度 30件応募8件採択）

SDGs達成に貢献する研究プロジェクトの推進

SDGsシンポジウム

昨年度までは、研究成果を活かした社会課題解決の取り組みや、学生の取り組みなどを紹介。

今年度は、大学としての研究面のインパクトをより意識する。SDGs各ゴールに関連する研究成果の国際発信の状況を分析し、インパクトの増加に繋がるようなセミナーを企画する。

(参考)昨年度チラシ

第4回琉大SDGs研究シンポジウム

気候変動の科学と大学の役割

2024年3月28日 (木) 9:30~12:00
ハイブリッド開催 (会場・オンライン)
琉球大学文系講義棟215室 (大講義室)

参加費 無料
要申込

私達の活動が影響すると考えられている気候変動、その効果的対策には、幅広い分野での研究や取り組み、そして私達の行動変容が必要です。本シンポジウムでは、気候変動やその影響について解説し、大学や研究者の取り組みについて紹介します。

基調講演「気候変動の科学と大学の役割」

気候変動問題解決のための脱炭素社会実現が世界的潮流になっている現在、大学が果たすべき役割は多岐にわたります。本講演では、東京大学の取り組みの一環を紹介するとともに、私自身も執筆員として関わった気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 第6次報告書から、気候変動と極端気象の関係、台風の変化、緩和の排出シナリオなどの重要なポイントを分かりやすく解説します。

東京大学大気海洋研究所 瀧部 雅浩 教授

気候変動のメカニズムと予測可能性に関する研究が専門。研究成果が多く引用されている (評価されている) 研究者として、Clarivate Highly Cited Researcherに2018年から連続選出されている。IPCC 報告書の執筆員も務める。

研究紹介「地球温暖化とサンゴの未来」

琉球大学熱帯生物圏研究センター 高橋 俊一 教授

活動紹介「サンゴ礁島しょの順応的環境マネジメント：気候変動下での持続可能な農業と海洋保全戦略」

琉球大学農学部 安元 純 助教

対象

どなたでも (無料)
会場定員 100名
オンライン 300名

参加申込

右QRコードまたは下記URLからお申込みください
締め切り：3月27日 (水)
<https://forms.office.com/r/bn8Y7nT2hv>

会場 沖縄県中頭郡西原町千原1番地
琉球大学文系講義棟215室

主催 琉球大学SDGs推進室
研究ワーキンググループ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年持続可能な開発目標 (SDGs) を実現しよう